

第 2 章

ステップ1 図 表

プロジェクトの目的及び概要等

表 - 1

<p>1. プロジェクトの目的：</p>
<p>2. プロジェクトの概要：</p> <p>(1) プロジェクトの実施位置・及び当該地域の自然的状況</p> <p>(2) プロジェクトに関連した政策的及び制度的な状況</p> <ul style="list-style-type: none">- ホスト国の当該セクターにおける政策的状況- ホスト国の法的枠組とその実施状況- プロジェクトの計画と実施における関係者（アクター） <p>(3) プロジェクトの技術的な状況</p> <ul style="list-style-type: none">- プロジェクトに関する技術的解説- 技術移転の解説（技術の選択の可能性を含む） <p>(4) プロジェクト活動、ベースラインケースに関連した将来の発展に影響を与えるキーファクター（社会経済的ファクターを含む）の動向</p> <ul style="list-style-type: none">・・・
<p>3. プロジェクトの持続可能な開発への貢献（アジェンダ 2 1 等）</p>

GHG排出・吸収に関連する技術、方法、プロセス等の把握

表 - 2

	製鉄所効率改善プロジェクト		製油所効率改善プロジェクト		火力発電所効率改善プロジェクト		天然ガスコージェネレーション設備 新設プロジェクト		再植林プロジェクト	
	技術・方法・プロセス	対象技術等(例)	技術・方法・プロセス	対象技術等(例)	技術・方法・プロセス	対象技術等(例)	技術・方法・プロセス	対象技術等(例)	技術・方法・プロセス	対象技術等(例)
燃料消費量の削減	<p>燃焼効率改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備更新 ・補助設備の追加 ・運転管理向上 <p>利用効率改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備更新 ・補助設備の追加 ・運転管理向上 <p>熱回収</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱のカスケード利用 <p>サイト内発電設備効率改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備更新 ・補助設備の追加 ・運転管理向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・高炉微粉炭吹込法 ・コークス炉自動燃焼制御 ・加熱炉設備高効率化 ・高効率バーナ技術導入 ・ペレットコーティングシステム ・石灰焼成炉の置換 <ul style="list-style-type: none"> ・直送圧延 ・連続鋳造設備 ・石炭調湿設備(CMC) <ul style="list-style-type: none"> ・熱風炉排熱回収装置 ・転炉排ガス回収設備 <ul style="list-style-type: none"> ・ボイラー設備更新 ・高効率蒸気タービンの設置 ・コンバインド発電設備 	<p>燃焼効率改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備更新 ・補助設備の追加 ・運転管理向上 <p>利用効率改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備更新 ・補助設備の追加 ・運転管理向上 <p>熱回収</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱のカスケード利用 <p>サイト内発電設備効率改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備更新 ・補助設備の追加 ・運転管理向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃熱ボイラー設備 ・温度、熱の最適制御システム ・燃焼用空気予熱設備 ・熱交換器の再配列 <ul style="list-style-type: none"> ・高性能触媒の採用 <ul style="list-style-type: none"> ・石油精製装置の硫黄回収装置用排熱ボイラ ・減圧蒸留装置、塔頂蒸気の排熱回収 ・ボイラー給水予熱利用 ・熱交換器の再配列 <ul style="list-style-type: none"> ・ボイラー設備更新 ・高効率蒸気タービンの設置 ・コンバインド発電設備 ・ガス化複合発電設備 ・ガスコージェネレーション設備 	<p>燃料効率改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備更新 ・補助設備の追加 ・運転管理向上 <p>発電効率改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備更新 ・補助設備の追加 ・運転管理向上 <p>熱回収</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱のカスケード利用 <p>燃料貯留効率改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備更新 ・補助設備の追加 ・運転管理向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボイラー設備更新 <ul style="list-style-type: none"> ・高効率蒸気タービンの設置 ・コンバインド発電設備(CC) ・改良型コンバインド発電設備(ACC) ・石炭ガス化炉発電設備(IGCC) <ul style="list-style-type: none"> ・コンバインド発電設備(CC) ・改良型コンバインド発電設備(ACC) ・石炭ガス化炉複合発電設備(IGCC) 	<p>燃料効率改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新設備導入 ・最新補助設備導入 ・最新運転管理システム・技術・設備導入 <p>発電効率改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新設備導入 ・最新補助設備導入 ・最新運転管理システム、技術、設備導入 <p>熱回収</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱のカスケード利用 <p>燃料貯留効率改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新設備導入 ・最新補助設備導入 ・最新運転管理システム・技術・設備導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・電熱併給設備(CHP) 		
電力消費量の削減	<p>電力利用効率改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備更新 ・補助設備の追加 ・運転管理向上 <p>熱回収</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱のカスケード利用 ・発電 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気炉用原料予熱装置 ・アーク炉省エネ操業法 ・酸素製造設備高効率化 <ul style="list-style-type: none"> ・高炉炉頂圧発電設備(TRT) ・コークス乾式消火設備(CDQ) ・焼結クーラー排熱回収設備 	<p>電力利用効率改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備更新 ・補助設備の追加 ・運転管理向上 <p>熱回収</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱のカスケード利用 ・発電 	<ul style="list-style-type: none"> ・VWVFの利用 <ul style="list-style-type: none"> ・熱交換器の再配列 ・スチームタービン駆動機 	<p>サイト内電力利用効率改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備更新 ・補助設備の追加 ・運転管理向上 <p>熱回収</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱のカスケード利用 ・発電 	<ul style="list-style-type: none"> ・VWVFの利用 	<p>サイト内電力利用効率改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新設備導入 ・最新補助設備導入 ・最新運転管理システム・技術・設備導入 <p>熱回収</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱のカスケード利用 ・発電 	<ul style="list-style-type: none"> ・電熱併給設備(CHP) 		
燃料の脱炭素、低炭素化	<p>代替燃料使用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・代替燃料(廃ブラ)の使用 	<p>代替燃料使用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サイト内発電所における代替燃料(アスファルトからの発生ガス)の使用 	<p>代替燃料使用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・石炭等からLNG、LPG発電への転換 	<p>代替燃料使用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・石炭等からLNGへの転換 		
炭素の吸収、固定									<p>植林・保育管理</p> <p>火災等の防止</p> <p>病虫害防止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗の機械化 ・樹種選定の適正化 ・間伐の適正化/補植 ・山火事防止 ・違法伐採防止

エネルギー関連分野のプロジェクトにおける寿命の設定方法

ステップ(i)

ステップ1 - 2を参考に、プロジェクトにおいて採用するGHG排出・吸収に関連する技術・方法・プロセスの国際的な普及状況を予測する。

ステップ(ii)

ステップ1 - 2及びステップ(i)を参考に、加えてホスト国の社会経済的な固有性等を勘案して、当該技術・方法・プロセスのホスト国における普及状況を予測する。

ステップ(iii)

ステップ(ii)において得られた予測結果から、普及率が横ばいになる、または増加傾向から減少傾向に変化する時点までをプロジェクトの寿命として設定する。

参考 1：再植林プロジェクトにおける永続性、アカウンティング、寿命について

永続性の取扱い	利点	欠点	想定されるアカウンティング方法	寿命
炭素プールの確保	単純かつ温暖化防止効果の確保が確実な方法。	得られる CER が減少し、民間には魅力なし。	平均貯蔵法	永続的 (100 年程度)
保険会社による炭素保険	単純かつ既に運用されているシステムであるため民間機関が受入れやすい。	CER の取り逃げ等 CER 発行後のプロジェクト管理上の問題がある。	平均貯蔵法	永続的 (100 年程度)
トン・イヤーアプローチ	温暖化防止に関する科学的な合理性がある。	プロジェクト開始後の相当期間において発行される CER が極めて少量となるため、民間には魅力なし。	トン・イヤー法	永続的 (100 年程度)
コロンビア提案	早期に CER の受取りが可能であるとともに、植林代替地が確保されれば、伐採が可能であるため短期伐採植林にも適用可能。	事業者は継続的な植林の実施が必然的に要請され、ホスト国には永続性に関する義務がほとんどない。	コロンビア提案	伐採時まで

参考 2：クレジット獲得可能期間に関する国際ルール

2001 年 7 月の COP6 再開会合において、以下の案について基本的合意が得られた。

FCCC/CP/2001/CRP.11 パラグラフ 47 (事務局仮訳)

47. プロジェクト参加者は、提案されたプロジェクト活動のクレジット獲得期間に関して、以下に示す代替アプローチの中から一つを選択することができる。
- (a) 最大 7 年間であるが、更新時に選任された運営機関が、当初のプロジェクトベースラインが有効であること、または利用可能な範囲で新たなデータを考慮してアップデートされたことを確定し、理事会に報告した場合は、最大 2 回更新する事が可能。
- (b) 更新のオプションはないが、最大 10 年間。